

セカンドパーティ・オピニオン

# 日本ハム株式会社サステナビリティ ファイナンスフレームワーク



## 評価概要

サステナリティクスは、日本ハム株式会社（以下、「日本ハム」あるいは「同社」）のサステナビリティファイナンスフレームワーク（以下、「本フレームワーク」）が信頼性及び環境・社会改善効果を有し、サステナビリティボンドガイドライン 2018（Sustainability Bond Guidelines、以下、「SBG」）の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスが、この評価に際して考慮したのは以下の要素です。



**調達資金の使途** 資金使途の対象となる適格カテゴリー、グリーンビルディング及び必要不可欠なサービスへのアクセス向上は、SBG において認められているカテゴリーと合致しています。また、サステナリティクスは、適格プロジェクトは、環境及び社会的改善効果をもたらす、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）目標 9 及び 11 を推進するものと考えます。



**プロジェクトの評価及び選定** 日本ハムの経理財務部が、適格クライテリアに沿って、プロジェクトの評価及び選定を実施します。また、選定されたプロジェクトは、経理財務部の担当役員によって最終決定されます。サステナリティクスは、日本ハムの同プロセスがマーケット・プラクティスに合致していると考えます。



**調達資金の管理** 経理財務部が、償還されるまでの間、年に一度、社内のシステムや帳票を用いて、サステナブルファイナンスによって調達した資金の充当額及び未充当額の追跡管理を行います。また、未充当資金は現金又は現金同等物にて管理されます。日本ハムの調達資金の管理はマーケット・プラクティスに合致しています。



**レポートング** 日本ハムは、調達資金の充当状況レポートング及びインパクト・レポートングを同社「ニッポンハムグループ統合報告書」にて年次で開示することを予定しています。充当状況レポートングには、充当額及び未充当額に加え、リファイナンス額又は割合が開示され、また、インパクト・レポートングには、充当プロジェクトの取得したグリーンビルディング認証の種類及びレベルや CO<sub>2</sub> 排出量を含む環境改善指標に加え、スロープ及び多機能トイレの設置数や車いす利用者専用駐車場の設置規模を含む社会的改善効果の指標が開示されます。サステナリティクスは、日本ハムのレポートングはマーケット・プラクティスに合致するものと見解を表明します。

評価日	2021 年 1 月 28 日
発行体所在地	日本（大阪）

## レポートセクション

はじめに.....	2
サステナリティクスのオピニオン.....	3
参考資料.....	9

本件に関するお問い合わせは、下記の Sustainable Finance Solution プロジェクト担当チームまでご連絡ください。

**Wakako Mizuta (東京)**  
Project Manager  
wakako.mizuta@sustainalytics.com  
(+81) 3 4571 2343

**Marie Toyama (東京)**  
Project Support  
marie.toyama@sustainalytics.com  
(+81) 3 4571 2343

**Taku Kinomura (東京)**  
Client Relations  
susfinance.japan@sustainalytics.com  
(+81) 3 4571 2343

## 日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性

サステナリティクスは、本フレームワークが日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に適合しているとの意見を表明します。日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版は信頼性の高いグリーンボンド発行のために発行体に期待される事項を示しており、また、資金使途にグリーンプロジェクトを含むサステナビリティボンドも対象としています。サステナリティクスは、本フレームワークと日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において「べきである」と表記されている事項との適合性を評価しました。

## はじめに

日本ハムは、日本の食品加工メーカーです。食肉の生産・処理・販売、食肉加工品、調理食品、水産物、乳製品、健康食品などの製造・販売を行い、日本を中心に、19 の国と地域に事業拠点を有します。また、食品事業に加え、スポーツ事業も手掛けており、グループ会社である、株式会社北海道日本ハムファイターズを通じてプロ野球球団「北海道日本ハムファイターズ」の運営を行う他、株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメントが新球場建設計画の推進を行っています。株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメントは、2023 年に、北海道北広島市において、北海道日本ハムファイターズの本拠地となる「HOKKAIDO BALL PARK F VILLAGE（北海道ボールパーク F ビレッジ）」<sup>1</sup>の開業を予定しており、災害発生時の防災施設や地域の広域避難場所としての社会的な街づくりに加え、EV 自動車用の充電ステーションの設置やEV 車両等におけるクリーンエネルギーの利用等含む環境に配慮した施設の建設を予定しています<sup>2</sup>。

日本ハムは、サステナビリティボンドの発行又はローンを実行することを企図して日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク（以下、「本フレームワーク」）を策定し、サステナビリティボンドの発行及びサステナビリティローンの実行により調達した資金を環境及び社会的改善効果をもたらす北海道ボールパーク F ビレッジの新球場（ES CON FIELD HOKKAIDO（エスコンフィールド HOKKAIDO））建設に係るファイナンス資金及び／又はリファイナンス資金に充当する予定です。本フレームワークは、以下の領域においてグリーン及びソーシャルにおける適格クライテリアを定めています。

1. グリーンビルディング
2. 必要不可欠なサービスへのアクセス向上

日本ハムは、サステナビリティとの中で、2020 年 12 月付の本フレームワークと SBG<sup>3</sup>及び日本の環境省が定めるグリーンボンドガイドライン 2020 年版<sup>4</sup>との適合性並びにその環境及び社会面での貢献について、セカンドパーティ・オピニオンを提供する委託契約を締結しています。本フレームワークの概要は、参考資料 1 をご覧ください。

### サステナビリティのセカンドパーティ・オピニオンの業務範囲及び限定

サステナビリティのセカンドパーティ・オピニオンは、評価対象の本フレームワークの現行のマーケット・プラクティスへの適合性並びに適格カテゴリーの信頼性及び環境及び社会的改善効果についてのサステナビリティの独立した見解を反映しています<sup>5</sup>。

セカンドパーティ・オピニオンの一部として、サステナビリティは以下を評価しました。

- 本フレームワークの、ICMA による SBG 及び日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性
- 調達資金の使途に関する信頼性及び想定される改善効果
- 調達資金の使途に関連する発行体のサステナビリティ戦略、実績及びサステナビリティ・リスク管理の整合性

調達資金の使途の評価に関して、サステナビリティは、マーケット・プラクティスと ESG のリサーチ・プロバイダーとしてのサステナビリティの専門知識に基づく社内のタクソノミー（バージョン 1.6.1）に依拠しています。

<sup>1</sup> 株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント、「HOKKAIDO BALL PARK F VILLAGE」：<https://www.hkdballpark.com/>

<sup>2</sup> 株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント、「お知らせ NEWS ビーワイディージャパン株式会社とのモビリティ領域における戦略的パートナーシップ契約締結について」：<https://www.hkdballpark.com/news/>

<sup>3</sup> 国際資本市場協会（ICMA）、「サステナビリティボンドガイドライン 2018」：<https://www.icmagroup.org/sustainable-finance/the-principles-guidelines-and-handbooks/sustainability-bond-guidelines-sbg/>

<sup>4</sup> 環境省、「グリーンボンドガイドライン 2020 年版」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113511.pdf>

<sup>5</sup> 多様な顧客に対応する複数の業務を運営している場合、客観的な調査がサステナビリティの基礎となり、アナリストの独立性の確保が客観的で実行可能な調査のために最も重要となります。そのため、サステナビリティは、堅固なコンフリクト・マネジメント・フレームワークを導入しており、これは、特に、アナリストの独立性、プロセスの一貫性、コマースチームとリサーチ（及びエンゲージメント）チームの構造的分離、データ保護並びにシステム分離の必要性に対応しています。最後にもう一つ重要なこととして、アナリストの報酬は、特定の商業的成果に直接結び付くわけではありません。サステナビリティの特徴は、一つは完全性、もう一つは透明性です。

## 日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク

サステナビリティは、委託契約の一環として、本フレームワークにおける調達資金の管理やレポーティングの側面だけでなく、事業プロセスや想定される調達資金の使途のサステナビリティ（持続可能性）に係る影響を理解するため、日本ハムの経理財務部のメンバーとの対話を実施しました。日本ハムの担当者は、（1）提供された情報の完全性、正確性又は最新性の確保は日本ハムの単独責任と理解していること、（2）全ての関連情報をサステナビリティに提供していること、（3）提供された重要な情報が適時に適切に開示されていることを確認しています。また、サステナビリティは、関連する公表文書及び社内文書の審査も行いました。

本意見書は、本フレームワークに対するサステナビリティのオピニオンであり、本フレームワークと併せてご覧ください。

現在のセカンドパーティ・オピニオンの更新は、サステナビリティと日本ハムとの間で合意される委託契約の条件に従って行われます。

サステナビリティのセカンドパーティ・オピニオンは、本フレームワークのマーケット・プラクティスへの適合性を反映していますが、適合性を保証するものでも、将来の関連するマーケット・プラクティスへの適合性を保証するものでもありません。さらに、サステナビリティのセカンドパーティ・オピニオンは、債券及びローンによる調達資金の充当が期待される適格プロジェクトによって予想されるインパクトに言及していますが、実際のインパクトを測定していません。本フレームワークに基づいて資金充当されたプロジェクトを通じて達成されたインパクトの測定と報告は、本フレームワークの所有者の責任です。

加えて、セカンドパーティ・オピニオンは、調達資金の意図された充当について意見を述べていますが、債券及びローンによる調達資金の適格な活動への充当を保証するものではありません。

現在のセカンドパーティ・オピニオンに基づいてサステナビリティが提供するいかなる情報も、日本ハムが本セカンドパーティ・オピニオンの目的のためにサステナビリティへ提供した事実又は記述及び関連周辺状況の真実性、信頼性又は完全性に賛成又は反対する声明、表明、保証又は主張とはみなされないものとします。

## サステナビリティのオピニオン

### セクション 1: 日本ハムサステナビリティファイナンスフレームワークへのサステナビリティのオピニオン

サステナビリティは、本フレームワークが信頼性及び環境改善効果を有し SBG の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナビリティは、本フレームワークにおける以下の要素を重要な点として考慮しました。

- 調達資金の使途
  - サステナビリティ債券及びローンの資金使途の対象となる 2 つの適格カテゴリーであるグリーンビルディング及び必要不可欠なサービスへのアクセス向上は、SBG の要素が参照されているグリーン債券原則（GBP）及びソーシャル債券原則（SBP）において環境及び社会的改善効果を有するプロジェクトカテゴリーとして認定されています。資金使途の環境及び社会的改善効果に係るサステナビリティによる評価の詳細は、セクション 3 をご参照ください。
  - 日本ハムは、調達資金を、資金使途の適格クライテリアを満たす「北海道ボールパーク F ビレッジ」の新球場（ES CON FIELD HOKKAIDO（エスコン フィールド HOKKAIDO））建設に関する支出に充当することを予定しています。
  - サステナビリティは、本フレームワークにおいて以下の要素を考慮し、サステナビリティプロジェクトとして肯定的に評価します。
    - 当該プロジェクトのグリーン性として、日本ハムは、新球場「エスコン フィールド HOKKAIDO」において第三者認証機関によるグリーンビルディング認証制度である DBJ Green Building 認証 5 つ星の認証の取得を約束しています。サステナビリティは、資

## 日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク

金使途の対象をグリーンビルディングの第三者認証制度において最上位の認証を取得した建築物に限定する同適格クライテリアは、資金充当対象となる建築物の環境改善効果を確認するもので、また、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。  
(DBJ Green Building 認証の概要については、参考資料 2 をご参照ください。)

- 上記グリーンビルディング認証取得による環境改善効果の確保に加え、新球場において社会的改善効果をもたらすプロジェクトとして、1) 障害者及び高齢者への支援を目的とした、車いす専用スロープ、多機能トイレ、車いす用の観戦スペース、盲導犬との同伴観戦スペース、3 塁側ゲート大階段のエスカレーター、車いす利用者専用駐車場合むバリアフリーやユニバーサルデザインの建設、また、2) 自然災害発生時における罹災者への支援を目的とした備蓄倉庫の設置に係る費用への充当が予定されており、SBP の提言に準拠した対象者の特定およびプロジェクトが定められています。
  - 日本ハムは、新規ファイナンスに加え、リファイナンスへの充当を予定しています。同社は、本フレームワークにおいて、リファイナンス活動のルックバック期間をサステナビリティボンドの発行又はローンの実行日から遡って 36 カ月以内に設定しています。
- プロジェクトの評価及び選定
    - 日本ハムの経理財務部がプロジェクトの評価及び選定の責任を有しており、充当するプロジェクトがフレームワークにて定められた資金使途の適格クライテリアに合致していることを確認します。また、経理財務部によって選定されたプロジェクトは、経理財務部の担当役員によって最終決定されます。
    - サステナリティクスは、上記、経理財務部及び担当役員による選定を考慮し、同社のプロジェクトの評価及び選定のプロセスは、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。
  - 調達資金の管理
    - サステナブルファイナンスに係る調達資金の管理は、日本ハムの経理財務部によって実施されます。経理財務部は、償還されるまでの間、年に一度、社内のシステムや帳票を用いて調達資金の充当額及び未充当額の追跡管理を行い、また、未充当資金については、現金又は現金同等物にて管理します。
    - サステナリティクスは、上記の経理財務部による明確な管理方法を考慮し、同社の調達資金の管理プロセスは、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。
  - レポーティング
    - 日本ハムは、調達資金が全額充当されるまでの期間、調達資金の充当状況及び充当プロジェクトの環境及び社会的改善効果を年次で同社ウェブサイトに掲載される「ニッポンハムグループ統合報告書」等で開示する予定です。
    - 同社の充当状況レポーティングには、調達資金の充当額及び未充当額に加え、リファイナンスに充当された額又は割合が含まれます。また、調達資金が全額充当された後においても、充当状況に大きな変化があった場合には必要に応じて開示が実施されます。
    - 同社による充当プロジェクトの環境改善効果及び社会的改善効果を示すインパクト・レポーティングには、グリーンプロジェクトとして、建設中の認証取得手続き状況、竣工後の取得グリーンビルディング認証及びレベル、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub> 排出量、水使用量に加え、ソーシャルプロジェクトとして、車いす利用者専用駐車場の設置規模、多機能トイレの設置数、車いす用の観戦スペース規模、盲導犬との同伴観戦スペース規模、スロープの設置数、3 塁側ゲート大階段のエスカレーターの設置数、備蓄倉庫における非常食等の備蓄量、子供向け無料遊具の設置数、都市公園内における多言語表記案内板の設置数を実行可能な範囲で開示することを約束しています。
    - サステナリティクスは、上記の充当状況及び環境改善効果を示す開示指標を考慮し、同社のレポーティングは、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。



### サステナビリティボンドガイドライン 2018 への適合性

サステナリティクスは、本フレームワークが SBG の 4 つの要件に適合していると判断しました。詳細については、サステナビリティボンド/サステナビリティボンド・プログラム外部機関レビューフォーム（参考資料 4）をご覧ください。

### 日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性

日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版は信頼性の高いグリーンボンドの発行のために発行体に期待される事項を示しており、また、資金使途にグリーンプロジェクトを含むサステナビリティボンドも対象としています。サステナリティクスは、本サステナビリティファイナンスフレームワークと日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において「べきである」と表記されている事項との適合性を評価しました。詳細については、日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性（参考資料 3）をご覧ください。

## セクション 2: 日本ハムのサステナビリティ戦略

### フレームワークによる日本ハムのサステナビリティ戦略への貢献

日本ハムは、2018 年度からの 3 年間（2018 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）を計画年度とする「中期経営計画 2020」<sup>6</sup>において、「持続可能性の追求」を経営方針の一つに掲げています。同社は「地球環境の保全」を含む「CSR の 5 つの重要課題」<sup>7</sup>を特定しており、同計画においてはこれらの重要課題を軸に事業を通じた環境・社会課題の解決に取り組むことを約束しています。

事業活動に伴う環境負荷の低減に向けて、日本ハムは 3 か年ごとに環境パフォーマンスに関する数値目標を設定しており、「中期経営計画 2020」においては 2020 年度までに、CO<sub>2</sub> 排出量原単位及び熱量原単位の各 8.0%減、用水使用量原単位の 3.0%減、廃棄物排出原単位 6.0%減、廃棄物リサイクル率 94%の達成を目指しています<sup>8</sup>。さらに、CO<sub>2</sub> や水資源を重点項目とする 2030 年までの環境中長期目標を策定する予定です<sup>9</sup>。その他、同社は環境方針<sup>10</sup>を掲げ、(1)商品・サービスへの環境配慮、(2)環境パフォーマンスの向上、(3)継続的改善、(4)法令の遵守、(5)社会との連携を通して環境に配慮した事業活動の推進を約束しています。

社会課題の解決への取り組みとして、同社は「ニッポンハムグループ行動基準」において、地震や風水害等の自然災害や大規模な事故に対する備えを計画的に進めることを掲げています<sup>11</sup>。また、同社のグループ会社である北海道日本ハムファイターズが運営管理する鎌ヶ谷スタジアムでは、車いす利用者優先駐車スペースや多機能トイレの設置等のユニバーサル対応の実績を有しており、同グループによる社会的な側面に取り組む意志を示しています。

上記を踏まえ、サステナリティクスは本フレームワークが日本ハムによる全社的なサステナビリティ戦略や目標、方針と整合し、同社による環境・社会課題の解決に向けた取り組みを後押しするものとの見解を表明します。

### プロジェクトに伴う環境及び社会的リスクに対処する十分な体制整備

サステナリティクスは、日本ハムが資金使途として定める新球場「エスコン フィールド HOKKAIDO」の建設は、環境及び社会面での改善効果を生み出す一方で、環境及び社会的リスクを伴う可能性があることを認識しています。主要なリスクとしては、土地の造成や施設の運営に伴う生態系への悪影響、騒音・振動が挙げられます。日本ハムは下記の調査、取り組みにより、同プロジェクトに伴う主要なリスクを管理、低減に取り組んでいます。

<sup>6</sup> 日本ハム株式会社、「ニッポンハムグループ中期経営計画 2020」：[https://www.nipponham.co.jp/ir/library/briefing\\_session/pdf/20180515.pdf](https://www.nipponham.co.jp/ir/library/briefing_session/pdf/20180515.pdf)

<sup>7</sup> 日本ハム株式会社、「ニッポンハムグループの CSR」：<https://www.nipponham.co.jp/csr/nhggroup/>

<sup>8</sup> 日本ハム株式会社、「環境目標と結果」：<https://www.nipponham.co.jp/csr/environment/management/result.html>

<sup>9</sup> 日本ハム株式会社、「ニッポンハムグループ 統合報告書 2020」：

[https://www.nipponham.co.jp/ir/library/annual/pdf/2020\\_annual/annual2020all\\_j.pdf](https://www.nipponham.co.jp/ir/library/annual/pdf/2020_annual/annual2020all_j.pdf)

<sup>10</sup> 日本ハム株式会社、「環境マネジメント」：<https://www.nipponham.co.jp/csr/environment/management/>

<sup>11</sup> 日本ハム株式会社、「ニッポンハムグループ行動基準」：<https://www.nipponham.co.jp/group/compliance/pdf/all.pdf>

- ・ 「エスコン フィールド HOKKAIDO」の建設に伴う周辺自然環境への影響を管理・低減する為、同球場を含む「北海道ボールパーク F ビレッジ」の建設予定地及び付随して新設される道路予定地の内、樹林地が残されている区域及び近接する特別天然記念物指定の野幌原始林を対象に、北広島市は 2018 年 7 月から 2019 年 7 月の期間、環境調査を実施しました<sup>12</sup>。現地調査の結果を踏まえ、事業実施による動植物への影響の予測評価と悪影響の回避・低減措置が導入された他、道路予定地については有識者で構成される「道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会」<sup>13</sup>の設立により、自然環境への影響についての継続的な監視と保全措置の見直しが行われています。既に希少な動植物の移植等の保全措置が講じられており、新球場の完成後についても日本ハムと同協議会の連携によるモニタリングが計画されています<sup>14</sup>。

上記を踏まえ、サステナビリティクスは同社が適格プロジェクトに付随する主要リスクを管理、低減する為の十分な体制を有するとの見解を表明します。

### セクション 3：調達資金の用途によるインパクト

日本ハムが本フレームワークで定めている資金用途のカテゴリーは、SBG の要素が参照されている GBP 及び SBP に加え、日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版によって、環境又は社会的改善効果をもたらすプロジェクトとして認められています。サステナビリティクスは、当該プロジェクトカテゴリーが日本において環境及び社会的改善効果をもたらす理由を以下に説明します。

#### 新球場「エスコンフィールド HOKKAIDO」による低炭素化への貢献及びバリアフリーやユニバーサルデザイン建設の重要性

日本ハムは、サステナビリティボンド及びローンによる調達資金を、DBJ Green Building 認証制度における 5 つ星の認証の取得を予定している新球場「エスコンフィールド HOKKAIDO」の建設資金に充当する予定です。日本では、競技場を含む商業施設や事務所・ビル等の建築物に係る業務その他部門の最終エネルギー消費量は 1990 年比で約 20%増加しており<sup>15</sup>、CO<sub>2</sub> 排出量は日本の総排出量の 18.5%を占めることから、建築物における省エネルギーの推進は気候変動への対策において重要な役割を担います<sup>16</sup>。日本政府は 2015 年に「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）」<sup>17</sup>を制定し、建築物における省エネルギー対策に係る規制措置を強化している他、2030 年度までに温室効果ガス（GHG）排出を 2013 年度比で 26%削減することを約束する約束草案<sup>18</sup>においては、建築物に起因する業務その他部門の CO<sub>2</sub> 排出量に対し、全部門で最多となる 4 割の削減目標を設定しています。また、日本の 2030 年削減目標の達成に向けて、同部門における新築建築物の省エネルギー性能の向上によって、日本の最終エネルギー消費量の削減目標の 6.6%に相当する 332.3 万 kl 程度の削減を目指しています<sup>19</sup>。「エスコンフィールド HOKKAIDO」が取得を予定する DBJ Green Building 認証は、評価物件の省エネルギー性に加え、水使用・廃棄物の削減や循環利用を含む省資源性、周辺の生態系への配慮等の幅広い環境側面や社会的側面を評価対象としています<sup>20</sup>。DBJ Green Building 認証の認証水準は、「環境・社会への配慮」において国内収益不動産全体の上位約 20%と想定されており、同制度の 5 つ星取得は認証水準を超える物件の上位 10%に相当する建築物と見なされています<sup>21</sup>。

<sup>12</sup> 北広島市 企画財政部 ボールパーク推進室 ボールパーク施設課、「環境調査について」：

[https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/hotnews/files/00129500/00129537/20180925\\_besshi1\\_kankyou.pdf](https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/hotnews/files/00129500/00129537/20180925_besshi1_kankyou.pdf)

<sup>13</sup> 北海道 空知総合振興局、「道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会開催要領」：

[http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/kk/skk/grp/kitahiroshima/1-00youryoui\\_1.pdf](http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/kk/skk/grp/kitahiroshima/1-00youryoui_1.pdf)

<sup>14</sup> 北海道 空知総合振興局、「第 4 回協議会資料」：[http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/kk/skk/grp/kitahiroshima/4-03shiryuu\\_8.pdf](http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/kk/skk/grp/kitahiroshima/4-03shiryuu_8.pdf)

<sup>15</sup> 国土交通省 住宅局 住宅生産課、「建築物省エネ法の改正について」：

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/sho\\_energy/pdf/028\\_03\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/sho_energy/pdf/028_03_00.pdf)

<sup>16</sup> 「2018 年度（平成 30 年度）の温室効果ガス排出量（確報値）について〈概要〉」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113761.pdf>

<sup>17</sup> 国土交通省、「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律〈建築物省エネ法〉の概要」：

[http://www.ibec.or.jp/ee\\_standard/files/outline\\_pamphlet.pdf](http://www.ibec.or.jp/ee_standard/files/outline_pamphlet.pdf)

<sup>18</sup> 「日本の NDC（国が決定する貢献）」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113664.pdf>

<sup>19</sup> 国土交通省 住宅局 住宅生産課、「建築物省エネ法の改正について」：

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/sho\\_energy/pdf/028\\_03\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/sho_energy/pdf/028_03_00.pdf)

<sup>20</sup> 日本政策投資銀行、一般財団法人日本不動産研究所、「DBJ Green Building 認証 2019 年スコアリングモデル v1.3」：

[http://igb.jp/contentsdata/pdf/score-seat2019v1\\_3.pdf](http://igb.jp/contentsdata/pdf/score-seat2019v1_3.pdf)

<sup>21</sup> 日本政策投資銀行、一般財団法人日本不動産研究所、「DBJ Green Building 認証 評価項目の改正および公開について」：

<http://igb.jp/contentsdata/pdf/kaisei2019.pdf>

また、「エスコンフィールド HOKKAIDO」においては、障害者や高齢者含む様々な方向けに、車いす専用スロープ、多機能トイレ、車いす利用者専用駐車場合むバリアフリーやユニバーサルデザインの建設を予定しています。現在、日本では、2020 年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の開催に加え、障害者権利条約の批准、障害者差別解消法の施行、高齢化社会の進行、観光立国推進による訪日外国人旅行者の増加等含む理由から、建築物のバリアフリーの重要性が一層高まっています<sup>22</sup>。また、野球場を含む競技場に関しては、2014 年度に「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（劇場、競技場等の客席・観覧席を有する施設に関する追補版）」が策定され<sup>23</sup>、高齢者や障害者（車いす利用者、視覚障害者、聴覚障害者含）等がより円滑に建築物を利用できる目的として、競技場等の客席・観覧席を有する施設の単位空間や災害時の避難や誘導等における環境整備が日本政府の政策として促進されています。更には、ユニバーサルデザイン 2020 関係閣僚会議により、2020 年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会を契機とし、ユニバーサルデザイン 2020 行動計画が策定され、身体障害、知的障害、精神障害等様々な障害のある人も移動しやすく生活しやすいユニバーサルデザインの街づくりが推進されています<sup>24</sup>。

上記の環境及び社会的側面を考慮し、サステナビリティは日本ハムによる「エスコンフィールド HOKKAIDO」への資金充当は、建築物に起因する CO<sub>2</sub> 排出量削減を含む環境負荷の低減への寄与を通じて日本の気候変動目標の達成に貢献し、高齢者や障害者による設備利用の環境整備を図るものであり、明確な環境及び社会的改善効果の創出が期待されるものと見解を表明します。

#### 「持続可能な開発目標（SDGs）」への貢献

「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals（SDGs）」は 2015 年 9 月に策定され、持続可能な開発を実現するための 2030 年までの目標が設定されました。本フレームワークに基づいて発行及び実行される日本ハムのサステナビリティボンド及びローンは以下の SDGs 目標を推進するものです。

資金用途のカテゴリー	SDG	SDG 目標
グリーンビルディング	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う。
必要不可欠なサービスへのアクセス向上	11. 住み続けられるまちづくりを	11.7 2030 年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。

## 結論

日本ハムは、本フレームワークに基づいてサステナビリティボンドの発行及びローンを実行し、調達資金をグリーンビルディング及び必要不可欠なサービスへのアクセス向上への貢献が期待される「エスコンフィールド HOKKAIDO」の建設費用へのファイナンス資金及び／又はリファイナンス資金に充当する予定です。サステナビリティは、同社が本フレームワークで定めた資金用途は、同社の中期経営計画 2020 の達成に貢献するとともに、日本政府が取り組む気候変動対策やバリアフリーの推進並びに SDGs の目標 9 及び 11 の達成を後押しするものと考えます。

日本ハムの資金用途は、SBG の基になる GBP 及び SBP に加え、日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において、明確な環境及び社会的改善効果を有するプロジェクトカテゴリーとして認められた事業区分に該当します。同社のボンド及びローンによる調達資金は、第三者認証機関によるグリーンビルディング認

<sup>22</sup> 国土交通省、「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準の改正」：[https://www.mlit.go.jp/report/press/house05\\_hh\\_000658.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_000658.html)

<sup>23</sup> 国土交通省、「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（劇場、競技場等の客席・観覧席を有する施設に関する追補版）〈概要版〉」：<https://www.mlit.go.jp/common/001097180.pdf>

<sup>24</sup> 首相官邸、「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」：

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\\_suishin\\_honbu/ud2020kkaigi/pdf/2020\\_keikaku.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/ud2020kkaigi/pdf/2020_keikaku.pdf)

## 日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク

---

証制度における最上位レベルの認証の取得に加え、障害者及び高齢者向けにバリアフリーやユニバーサルデザインの建設に係る費用への充当を予定しています。サステナリティクスは同社の適格クライテリアの設定、プロジェクトの評価・選定プロセス、調達資金の管理は、マーケット・プラクティスに合致すると見解します。

サステナリティクスは、上記を総合的に検討し、本フレームワークは SBG の 4 つの要件及び日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版と適合し、信頼性及び透明性が高いものであるとの意見を表明します。



## 参考資料

### 参考資料1：フレームワークの概要

サステナビリティ債券及びローンの発行を目的として、日本ハムは2020年12月にSBGが定める4つの要件（調達資金の用途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポートング）に適合するフレームワークを以下の通り策定しました。尚、フレームワークは日本ハムに帰属します。

#### 1. 調達資金の用途

サステナビリティファイナンスで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす「HOKKAIDO BALL PARK F VILLAGE（北海道ボールパークFビレッジ）」の新球場（ES CON FIELD HOKKAIDO（エスコンフィールド HOKKAIDO））の建設に関する支出又はリファイナンスに充当する予定です。リファイナンスの対象となるルックバック期間は、サステナビリティ債券の発行又はサステナビリティローンの実行から遡って36カ月以内となります。

##### 1.1 適格クライテリア

	適格カテゴリー	適格クライテリア
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	DBJ Green Building 認証における5つ星
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	（受益層①）障がい者・高齢者 ・多機能トイレ ・車いす利用者専用駐車場 ・車いす用の観戦スペース ・盲導犬との同伴観戦スペース ・スロープ ・3 塁側ゲート大階段のエスカレーター  （受益者②）自然災害の罹災者 ・備蓄倉庫  （受益層③）若年層の弱者グループ ・子供向け無料遊具 ・多機能トイレ ・スロープ  （受益層④）外国人等のマイノリティ ・都市公園内における案内板の多言語表記

#### 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

##### 2.1 プロジェクトの選定における適格及び除外クライテリアの適用

対象事業の評価と選定のプロセスについては、日本ハム株式会社の経理財務部が適格クライテリアに適合していることを確認し、経理財務部の担当役員が最終決定を行います。

##### 2.2 環境・社会目標

###### 2.2.1 環境目標

当社グループは、自然の恵みに感謝し、持続可能な社会の実現に向けて、環境と調和のとれた企業活動を推進します。また、中期経営計画において、事業活動の環境負荷低減を目指した環境目標を3年ごとに策定しています。持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷低減に努めると共に資源の有効利用に継続的に取り組んでいます。

###### 2.2.2 社会目標

当社グループは、お客様、地域の皆様、お取引先様、株主・投資家、従業員などのステークホルダーの皆様からの期待、信頼に応える企業活動を推進します。

### 2.3 環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

ボールパーク建設予定地や新しく整備を検討している道路の予定地周辺には、森林が広がっており、環境に配慮し、自然と共生した施設にするため、北広島市においてこの地域での環境調査が行われています。また、土地の造成を行うために必要な埋蔵文化財の調査も実施しています。環境調査については、今後もそれぞれの季節で引き続き実施する調査結果に基づき、自然環境を守るための対応策を検討することになっています。

## 3. 調達資金の管理

サステナビリティファイナンスにより調達した資金は、償還されるまでの間、日本ハム株式会社の経理財務部にて内部管理システム・帳票等を用いて年次で充当状況を管理します。なお、調達資金の充当が決定されるまでの間、現金または現金同等物にて管理する予定です。

## 4. レポーティング

調達資金の全額が充当されるまでの間、年に一回、充当状況を当社ウェブサイト上（「ニッポンハムグループ統合報告書」等）で開示します。調達資金の充当後に資金状況の大きな変化が発生した場合には、調達資金の充当状況を示すレポートを当社のウェブサイト上にて適宜公表します。

### 4.1 資金充当状況のレポーティング


- ・ 充当金額
- ・ 未充当金の残高
- ・ 調達資金のうちファイナンスに充当された部分の概算額（または割合）

### 4.2 インパクト・レポーティング

調達資金の全額が充当されるまでの間、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、年に一回、以下の情報を当社ウェブサイト上（「ニッポンハムグループ統合報告書」等）で開示します。

	適格カテゴリー	環境改善効果および社会改善効果
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	（建設期間中） ・ 認証取得手続きの進捗状況  （竣工後） ・ 環境認証の一覧 ・ エネルギー使用量 ・ CO <sub>2</sub> 排出量 ・ 水使用量
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	・ 車いす利用者専用駐車場の設置規模 ・ 多機能トイレの設置数 ・ 車いす用の観戦スペース規模 ・ 盲導犬との同伴観戦スペース規模 ・ スロープの設置数 ・ 3 塁側ゲート大階段のエスカレーターの設置数 ・ 備蓄倉庫における非常食等の備蓄量・子供向け無料遊具の設置数 ・ 都市公園内における多言語表記案内板の設置数

## 参考資料 2：グリーンビルディング認証スキームの概要と比較

	DBJ Green Building 認証制度 <sup>25</sup>
背景	DBJ Green Building 認証制度は、2011 年に日本政策投資銀行が創設した認証制度であり、一般財団法人日本不動産研究所（JREI）との業務提携により運営されています。同プログラムは、主要な地域基準の一つとして認識されています。同認証制度は、オフィスビル、物流施設、居住用不動産、商業施設に対して取得可能です。
認証レベル	1 つ星 2 つ星 3 つ星 4 つ星 5 つ星
評価領域：建築物の環境性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>Energy &amp; Resources（省エネルギー、省資源等）</li> <li>Amenity（利便性・快適性）</li> <li>Resilience（環境リスク、遵法性等）</li> <li>Community &amp; Diversity（周辺環境、生物多様性への配慮等）</li> <li>Partnership（情報開示等）</li> </ul>
要件	<p>スコアリングによるパフォーマンス評価</p> <p>300 点満点となっており、通常設問 73 問とイノベーション設問 12 問の 85 の質問で構成されています。</p> <p>JREI が現地で上記の指標に基づき建築物の性能評価を行い、JREI 内に設置されたコミッティにより認証結果を判定します。</p>
パフォーマンス表示	 <p>26</p>
定性的考察	DBJ Green Building 認証制度は、LEED と CASBEE と並んで日本のグリーンビルディングの評価基準の一つとして認知されています。同制度のウェブページによると、2020 年 3 月末現在、日本において 902 の不動産物件が当プログラムによる認証を受けています。 <sup>27</sup>

<sup>25</sup> 日本政策投資銀行、一般財団法人日本不動産研究所、「DBJ Green Building」：<http://igb.jp/>

<sup>26</sup> DBJ Green Building 認証、日本政策投資銀行（英文）：[http://www.dbj.jp/en/pdf/service/finance/g\\_building/gb\\_presentation.pdf](http://www.dbj.jp/en/pdf/service/finance/g_building/gb_presentation.pdf)

<sup>27</sup> 日本政策投資銀行、一般財団法人日本不動産研究所、「DBJ Green Building」：<http://igb.jp/>

### 参考資料 3：日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性

日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版	日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版との適合性	日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版との適合性についてのサステナビリティクスコメント
1. 調達資金の使途	適合	日本ハムが本フレームワークにおいて調達資金の使途として定める、グリーンビルディングに係るプロジェクトは、日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において明確な環境改善効果を有する事業区分として認められているものです。同社は、適格プロジェクトに付随する環境面のリスクを管理、低減する為の措置についても本フレームワークの中で説明しており、投資家は事前に関覧することができます。また、日本ハムは資金使途として定める新球場「エスコンフィールド HOKKAIDO」を対象に、複数回のサステナビリティボンドの発行を通じてリファイナンスを行う予定ですが、建設される新規の資産となるため、同球場の経過年数、残存耐用年数及びリファイナンスされる額の開示を予定していません。
2. プロジェクトの評価及び選定プロセス	適合	同社は本フレームワークにおいて、サステナビリティボンドの発行によって実現を目指す「中期経営計画 2020」における環境目標について説明しています。また、本フレームワークでは、プロジェクトの評価・選定にあたってのプロセスと適格クラテリアが説明されています。
3. 調達資金の管理	適合	調達資金は経理財務部が管理し、サステナビリティボンドが償還されるまでの間、年に一度、充当額及び未充当資金の額を追跡管理することを本フレームワーク上で説明しています。同社は、未充当資金が生じることを想定していませんが、未充当資金が生じる場合には、現金又は現金同等物にて管理されます。
4. レポーティング	適合	日本ハムは本フレームワークにおいて、調達資金の全額が充当されるまでの間、調達資金の充当状況及び環境改善効果について、一年に一回及び大きな状況の変化があった場合は適時に開示することを約束していません。調達資金の充当状況については、充当額及び未充当額が開示され、環境改善効果としては、建設期間中については認証取得手続き状況、竣工後については取得グリーンビルディング認証及びレベル、エネルギー使用量、CO <sub>2</sub> 排出量、水使用量を報告する予定です。

## 参考資料 4 : サステナビリティボンド / サステナビリティボンド・プログラム-外部機関レビューフォーム

### セクション 1. 基本情報

発行体の名称:	日本ハム株式会社
サステナビリティボンド ISIN コード/サステナビリティボンド発行体フレームワークの名称 (該当する場合):	日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク
レビュー機関の名称:	サステイナリティクス
本フォームの記入完了日:	2021 年 1 月 28 日
レビューの発行日:	

### セクション 2. レビューの概要

#### レビューの範囲

レビューの範囲では、以下の項目を適宜使用/採用しています。

本レビューでは次の要素を評価し、GBP と SBP との整合性を確認しました。

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価及び選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング            |

#### レビュー機関の役割

- |  |                                 |
|--|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング (セカンドパーティ・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証     |
| <input type="checkbox"/> 検証                                      | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他 (具体的に記入して下さい)                       |                                 |

注: レビューが複数ある場合やレビュー機関が異なる場合は、レビューごとに別々のフォームを使用して下さい。

#### レビューの要約及び/又はレビュー全文へのリンク (該当する場合)

上記「評価概要」を参照ください。



### セクション 3. レビューの詳細

レビュー機関は、以下の情報を可能な限り詳細に提供し、コメントセクションを使用してレビューの範囲を説明することが推奨されています。

#### 1. 調達資金の使途

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

資金使途の対象となる適格カテゴリー、グリーンビルディング及び必要不可欠なサービスへのアクセス向上は、SBG において認められているカテゴリーと合致しています。また、サステナビリティクスは、適格プロジェクトは、環境及び社会的改善効果をもたらし、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）目標 9 及び 11 を推進するものと考えます。

#### 資金の使途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー  | <input type="checkbox"/> エネルギー効率               |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び抑制   | <input type="checkbox"/> 自然生物資源の持続可能な管理と土地の使用  |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全  | <input type="checkbox"/> クリーン輸送                |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源及び廃水管理   | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応              |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス   | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行の時点では確認されていないが、将来的にGBPのカテゴリーに適合するか、又はまだGBPのカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）      |

GBPのカテゴリーにない場合は、環境分類を記入して下さい（可能な場合）

#### 資金の使途のカテゴリー（分類は SBP に基づく）

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備   | <input checked="" type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス     |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅  | <input type="checkbox"/> 雇用創出（中小企業向け資金供給とマイクロファイナンスを通じて） |
| <input type="checkbox"/> 食料安全保障   | <input type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント                |
| <input type="checkbox"/> 発行の時点では確認されていないが、将来的にSBPのカテゴリーに適合するか、又はまだSBPのカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）                |

SBPのカテゴリーにない場合は、社会分類を記入して下さい（可能な場合）

## 2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

日本ハムの経理財務部が、適格クライテリアに沿って、プロジェクトの評価及び選定を実施します。また、選定されたプロジェクトは、経理財務部の担当役員によって最終決定されます。サステナビリティクスは、日本ハムの同プロセスはマーケット・プラクティスに合致していると考えます。

### 評価・選定

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体のサステナビリティ目標は、環境改善効果をもたらす                           | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが適格カテゴリーの範囲に適合していることが判断される        |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドによる調達資金に適格なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトに関連した潜在的ESGリスクを特定及び管理していることが判断される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価・選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている                   | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）   |

### 責任に関する情報及び説明責任に関する情報

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言又は検証を受けた評価／選定のクライテリア | <input type="checkbox"/> 組織内での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）                         |                                  |

## 3. 資金管理

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

経理財務部が、償還されるまでの間、年に一度、社内のシステムや帳票を用いて、サステナブルファイナンスによって調達した資金の充当額及び未充当額の追跡管理を行います。また、未充当資金は現金又は現金同等物にて管理されます。日本ハムの調達資金の管理はマーケット・プラクティスに合致しています。

### 調達資金の追跡管理:

- |  |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体はグリーンボンドの調達資金を体系的に区別又は追跡管理している    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）                                |

### その他の情報開示

## 日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規の投資にのみ充当       | <input checked="" type="checkbox"/> 既存と新規の投資に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当         | <input type="checkbox"/> 支出ポートフォリオに充当           |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）：      |

**4. レポーティング**

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

日本ハムは、調達資金の充当状況レポーティング及びインパクト・レポーティングを同社「ニッポンハムグループ統合報告書」にて年次で開示することを予定しています。充当状況レポーティングには、充当額及び未充当額に加え、リファイナンスの額又は割合が開示され、また、インパクト・レポーティングには、充当プロジェクトの取得したグリーンビルディング認証の種類及びレベルやCO<sub>2</sub>排出量を含む環境改善指標に加え、スロープ及び多機能トイレの設置数や車いす利用者専用駐車場の設置規模を含む社会的改善効果の指標が開示されます。サステナビリティクスは、日本ハムのレポーティングはマーケット・プラクティスに合致するものと見解を表明します。

**資金使途レポーティング**

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクト・ポートフォリオ単位  |
| <input type="checkbox"/> 個々の債券               | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）： |

**報告される情報**

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当額  | <input type="checkbox"/> 投資額全体におけるサステナビリティ<br>イボンドによる調達額の割合 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）<br>未充当額、調達資金のうち<br>リファイナンスに充当された部分<br>の概算額（または割合） |   |

**頻度**

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年    | <input type="checkbox"/> 半年毎 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |                              |

**インパクト・レポーティング**

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクト・ポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個々の債券               | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |

**報告される情報（予想又は事後の報告）**

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガスの排出量／削減量 | <input type="checkbox"/> 消費エネルギーの削減量 |
|--|--------------------------------------|

## 日本ハム株式会社サステナビリティファイナンスフレームワーク

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 水消費量の削減量  | <input type="checkbox"/> 受益者の数   |
| <input type="checkbox"/> 特に対象とする人々 | <input checked="" type="checkbox"/> その他のESG指標（具体的に記入して下さい）：<br>認証取得手続きの進捗状況、グリーンビルディング認証の種類及びレベル、エネルギー使用量、水使用量、車いす利用者専用駐車場の設置規模、多機能トイレの設置数、車いす用の観戦スペース規模、盲導犬との同伴観戦スペース規模、スロープの設置数、3塁側ゲート大階段のエスカレーター<br>の設置数、備蓄倉庫における非常食等の備蓄量 |

## 頻度

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年    | <input type="checkbox"/> 半年毎 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |                              |

## 開示の方法

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に掲載                                      | <input type="checkbox"/> サステナビリティ・レポートに掲載                          |
| <input type="checkbox"/> 臨時報告書に掲載                                      | <input checked="" type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）：<br>同社ウェブサイト上 |
| <input type="checkbox"/> レポーティングは審査済み（「審査済み」の場合、どの部分が外部審査の対象かを明示して下さい） |  |

参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記して下さい（該当する場合）

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

## 参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

## 提供レビューの種類

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証          |
| <input type="checkbox"/> 検証／監査                       | <input type="checkbox"/> レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）            |                                      |

## レビュー機関

## 発行日

**グリーンボンド原則（GBP）とソーシャルボンド原則（SBP）が定義するレビュー機関の役割について**

- i. セカンドパーティ・オピニオン：発行体とは独立したサステナビリティに関する専門性を有する機関がセカンドパーティ・オピニオンを発行することができる。その機関は発行体のサステナビリティボンド・フレームワークにかかるアドバイザーとは独立しているべきであり、さもなくばセカンドパーティ・オピニオンの独立性を確保するために情報隔壁のような適切な手続きがその機関のなかで実施されるものとする。セカンドパーティ・オピニオンは通常、GBP、SBP との適合性の査定を伴う。特に、発行体の包括的な目的、戦略、持続可能性に関連する理念及び／又はプロセス、かつ資金使途として予定されるプロジェクトの環境・社会面での特徴に対する評価を含み得る。
- ii. 検証：発行体は、典型的にはビジネスプロセス及び／又はサステナビリティ基準に関連する一定のクライテリアに照らした独立した検証を取得することができる。検証は、発行体が作成した内部又は外部基準や要求との適合性に焦点を当てることができる。原資産の環境・社会面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することもできる。発行体の資金使途の内部的な追跡手法、サステナビリティボンドによる調達資金の配分、環境・社会面での影響評価に関する言及又はレポーティングの GBP、SBP との適合性の保証もしくは証明を検証と称することもできる。
- iii. 認証：発行体は、サステナビリティボンドやそれに関連するサステナビリティボンドフレームワーク、又は調達資金の使途について、一般的に認知された外部のサステナビリティ基準もしくは分類表示への適合性に係る認証を受けることができる。基準もしくは分類表示は特定のクライテリアを定義したもので、この基準に適合しているかは通常、認証クライテリアとの適合性を検証する資格を有し、認定された第三者機関が確認する。
- iv. グリーン／ソーシャル／サステナビリティボンドスコアリング／格付け：発行体は、サステナビリティボンドやそれに関連するサステナビリティボンドフレームワーク又は資金使途のような鍵となる要素について、専門的な調査機関や格付機関などの資格を有する第三者機関の、確立されたスコアリング／格付手法を拠り所とする評価又は査定を受けることができる。そのアウトプットは環境及び／又は社会面での実績データ、GBP、SBP に関連するプロセス又は2°C気候変動シナリオなどの他のベンチマークに着目する場合がある。グリーンボンドスコアリング／格付けは、たとえ重要なサステナビリティに関するリスクを反映していたとしても、信用格付けとは全くの別物である。



## 免責事項

© Sustainalytics 2021 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

本書は日本語で作成されました。日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

## サステナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020年には、Climate Bonds Initiativeにより、3年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance 誌により、2年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照ください。



GlobalCapital  
SRI Awards

Named

2015: Best SRI or Green Bond Research or Rating Firm  
2017, 2018, 2019: Most Impressive Second Opinion Provider

